

宮前区のミライづくりプロジェクト

- 1 新宮前市民館・図書館・区役所の整備に向けた取組
- 2 現区役所等施設・用地の活用に向けた取組
- 3 向丘出張所の機能検討に関する取組
- 4 駅アクセス向上に向けた取組

連携

再開発事業
鷺沼駅前地区

- 1 宮前区役所・市民館・図書館を鷺沼駅周辺に移転・整備します
- 2 民間事業者と連携し、文化・交流拠点を創ります
- 3 現区役所等施設・用地の活用は市民参加で検討します

このプロジェクトニュースのバックナンバー（第1号、第2号）は、区役所等に配架しているほかホームページにも掲載していますので是非、ご覧ください！



宮前区のミライづくりプロジェクトニュース 第3号

Q&A よくあるご質問にお答えします（これまでネット質問フォームに寄せられた質問等も掲載しています）

Q1 なぜ、区役所、市民館、図書館は移転するの？

A1 移転・整備によって、アクセスやバリアフリーなど現施設の課題の解消に加え、施設の利便性、耐震性、機能性向上などの効果が期待されます。このほか、区民意見としていただいた課題への対応を含め、現施設の継続利用と移転・整備の検討を行った結果、今回の再開発に合わせて移転・整備し、持続可能で宮前区全体の活性化を促す「核」としてのまちづくりを進めていくこととしました。

Q2 鷺沼駅前に移転すると、遠くなって不便になる地域もあるのでは？

A2 再開発で、鷺沼駅のバスターミナルを約2倍の広さにします。小田急線沿線からのバス路線の新設や、向丘地区から鷺沼駅への既存路線の増便など、区民の皆さまの利便性向上と、宮前区全体の発展に向け、バス事業者と連携したアクセス向上の取組を進めていきます。

Q3 新しい宮前市民館・図書館や区役所は、いつ、どこにできるの？

A3 再開発計画（施設計画や機能）の検証状況等を踏まえ、現時点の想定では、市民館・図書館は令和8（2026）～9（2027）年度頃、駅前街区の再開発ビルの低層階に整備する計画です。また、区役所は令和11（2029）～13（2031）年度頃、北街区の再開発ビルの低層階に整備する計画です。

Q4 現在の宮前区役所や市民館・図書館はどうなるの？

A4 現在の宮前区役所や市民館・図書館は鷺沼駅周辺に移転します。鷺沼駅周辺に新施設がオープンしたあとの現在の施設・用地の使い方については、引き続き、区民の皆さまのご意見を伺いながら、検討していきます。

Q5 現在の建物は、今後は使えないの？

A5 現在の区役所・市民館・図書館の建物は、長寿命化や修繕を行ったうえで使い続けることはできますが、バリアフリー面などの課題は残ります。引き続き、土地・建物を含めた新しい使い方については、継続利用のメリット、デメリットなどを整理し、区民の皆さまのご意見を伺いながら、検討していきます。

Q6 向丘出張所はどうなるの？

A6 令和4（2022）年2月に「宮前区役所向丘出張所の今後の活用に関する方針」を策定しました。本方針に基づき、今後、向丘出張所の一層の活用に向けた取組を進めます。詳しくは、2ページをご覧ください。

Q7 フレルさぎ沼は無くなってしまうの？

A7 再開発事業の推進にあたり、撤去されることとなりますが、工事期間中は仮設店舗の設置など、生活利便機能の継続について検討していくとのことです。

Q8 施設計画の検証結果はいつ頃公表されるの？

A8 本ニュースレターに掲載した検討内容の実現に向けて、引き続き準備組合による施設計画の検討（深度化）が進められており、本市としても、再開発事業の早期着手に向けて、令和4（2022）年度の環境アセス・都市計画手続きのタイミングに併せて、計画案を公表する予定です。

お問い合わせ先

- 再開発事業など、まちづくりに関すること
まちづくり地域整備推進課 TEL：044-200-0483
- 市民館・図書館に関すること
教育委員会事務局生涯学習推進課 TEL：044-200-1981
- 区役所に関すること
宮前区役所企画課 TEL：044-856-3170
- 現区役所等施設・用地の活用に関すること
総務企画局公共施設総合調整室 TEL：044-200-2346
- 向丘出張所の活用に関すること
市民文化局区政推進課 TEL：044-200-2309

ホームページなどで
取組内容をお知らせ中！

ニュースレター第1号、第2号もこちらでご覧になれます。

ネット質問フォームを設置しています！

令和4（2022）年3月31日まで、本プロジェクトへの質問を受け付けています。ホームページの質問フォームかFAX（200-3967）でまちづくり地域整備推進課まで。
いただいた質問については、質問の要旨と本市の見解をあわせてホームページ上に公表します。



宮前区 ミライづくり

多様なライフスタイルが
実現できるまちを目指して

※イラストはイメージであり、目指す方向性をあらわしたものです。

鷺沼駅周辺（現況）



再開発事業における導入機能の配置イメージ



全体スケジュール（予定）について

現在行われている再開発の検討状況（詳細は3ページをご覧ください）を踏まえて、現時点で想定する今後の取組スケジュールは次のとおりです。

年度		H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6(2024)～R9(2027)		R10(2028)～R13(2031)		
ミ ライ づ く り プ ロ ジ ェ ク ト	① 市民館 図書館	基本方針策定	基本的な考え方 ・基本計画策定	設計・管理運営計画策定				整備工事	R8～R9 新宮前市民館・図書館OPEN			
	区役所			施設全体の設計 との調整				基本計画策定・設計		整備工事	R11～R13 新宮前区役所OPEN	
	② 現施設 用地			基礎調査・ 市民参加による検討				活用基本方針 策定(R5)	活用基本方針に基づく取組の推進			
	③ 向丘 出張所			市民参加 による検討	活用方針 策定(R3)	活用方針に基づく取組の推進						
再開発	計画 検討	環境アセス手続 都市計画手続				実施 設計	駅前街区工事		R8～R9 供用開始	北街区 工事	R11～R13 供用開始	

1 新宮前市民館・図書館・区役所の整備に向けた取組

令和3（2021）年度は、「新しい宮前市民館・図書館基本計画」（令和2（2020）年8月策定）に基づき、引き続き、基本・実施設計を行うとともに、市民意見を伺いながら、事業・サービスの内容や効率的・効果的な提供手法等に関する「（仮称）新しい宮前市民館・図書館管理運営計画」の策定作業を行い、ハードとソフトの一体的な検討を進めています。

市民意見聴取ではワークショップを全9回開催し、小中高生・大学生からベテラン世代まで延べ約250名の方にご参加いただき、新しい施設で行われる事業や使用ルール等について、皆さまから多くのアイデアをいただきました。

その結果をニュースレターやオープンハウス型説明会などでお知らせしました。

詳しくは市HPへ ▶



ニュースレター

2 現区役所等施設・用地の活用に向けた取組

現在の宮前区役所等の施設・用地の活用については、「①市による施設・用地の保有」、「②宮前区全体と周辺エリアの将来を見据えた課題やニーズの整理」、「③市民参加による検討」を基本的な考え方として検討することとし、これまで、市民意見聴取の手法の整理などを進めてきました。

令和4（2022）年1月から市民参加による検討を開始し、関係団体等への説明・ヒアリングや区民意識アンケート、ワークショップなど、多様な意見聴取を実施しながら、令和5（2023）年度の「（仮称）宮前区役所等施設・用地の活用に関する基本方針（活用基本方針）」の策定に向け、取組を進めていきます。

令和3（2021）年度～令和4（2022）年度
関係団体等への説明・ヒアリング

令和5（2023）年度

令和6（2024）年度以降

令和4（2022）年度
区民意識アンケート
地域課題の分析

ワークショップ
活用基本方針策定

活用基本方針に基づく
取組の推進

3 向丘出張所の機能検討に関する取組

令和元（2019）年から、多くの方が今後の地域のまちづくりに関心を持ち関わってもらえるよう市民意見把握の取組を進め、令和4（2022）年2月に「宮前区役所向丘出張所の今後の活用に関する方針」を策定しました。

活用方針では、出張所に求められる機能の充実を図るため、出張所の今後の活用に向けた基本的な考え方（右図）をまとめました。

行政だけでなく皆さまと一緒に「市民創発※」により、基本的な考え方の実現に向けて取り組めます。



出張所では、今後、地域資源を活かしたイベントなども実施予定です。近くにお越しの際は、気軽にお立ち寄りください。

※地域の歴史を学ぶ講座の開講に向けた打合せの様子

※市民創発 | 様々な個人や団体が出会い、それぞれの思いを共有・共感することで生まれる相互作用により、これまでにない活動や予期せぬ価値を創出すること。

4 駅アクセス向上に向けた取組

再開発事業により、交通広場の拡充整備や交差点の集約化など、駅周辺の交通環境の改善を行います。また、路線バスネットワークの充実に向け、今後、交通広場の供用開始時期を見据え、バス事業者と連携した取組を進めます。

再開発の検討状況について

令和2（2020）年11月、準備組合から新型コロナ危機を契機として、再開発計画（施設計画や機能）の再検証を行う旨の申し入れがあり、引き続き検討が進められている中、現在の検討状況について、次のとおり報告がありました。

再開発計画の検証に関する申し入れ（骨子）（令和2（2020）年11月 準備組合）

- 基本方針を踏まえつつ、引き続き、再開発事業を推進
- オープンスペースの重要性や職住近接のニーズに対応し、将来にわたり市民が、安心・快適に利用できる施設計画や機能について再度検討

※詳しくはニュースレター第2号等参照

検証の視点

①広場

②開放

③境界

④職住

⑤流動

社会状況等の変化・動き

「デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方検討会（中間とりまとめ）」

※令和3（2021）年4月 国公表

「駅まちデザインの手引き」

※令和3（2021）年9月 国公表

再開発事業の検証について（概要）（令和3（2021）年12月 準備組合）

- これまでの視点等を基本としつつ、状況変化を捉え検証のさらなる深度化を図る
- 「駅まちデザインの手引き」等を参考に駅・駅前広場・周辺市街地を一体的に捉え、将来の魅力的なまちづくりの中核を担う「駅まち空間」の実現に向けた検討と関係者との調整等を行う
- 関連手続きについて再調整し、引き続き、早期着手に向けた取組を推進

具体的な検討内容（これまでの検討状況を含む）

○にぎわい・ウォーカブル

- 歩行者空間と広場空間を一体的に整備し、まちに開かれた居心地が良く歩きとなるまちなみ
- 線路を挟んだ南北のまちの一体感の醸成や駅・施設へのスムーズな誘導

○魅力的な「駅まち空間」の整備

- 駅から周辺市街地につながる連続的な歩行者空間の創出による回遊性の向上
- 商業や公共施設、商店街等との連携による常に人が訪れる駅まち空間の実現
- 交通事業者と連携し、ユニバーサルデザインに対応した安全、快適な動線確保による公共交通の乗換利便性の向上

○オープンスペースの拡充・利活用

- 地域住民の活動やイベントが積極的に行われる広場の整備や仕掛けづくり

○緑化・脱炭素化

- 将来へ向け、脱炭素化に向けた取組および環境性能の確保

○防災

- 災害時の広場・オープンスペースの活用等

※写真：東急（株）提供

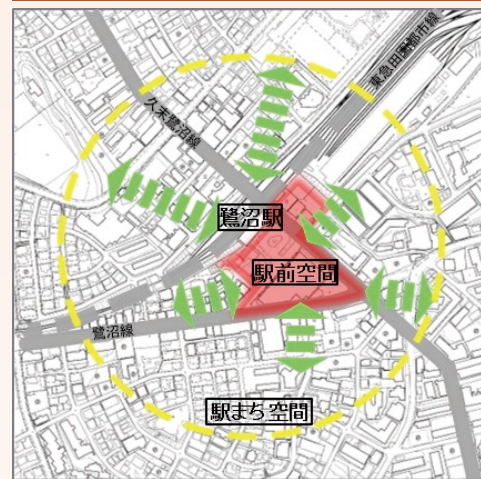
※記載内容は検討の方向性を示すものであり、実現性も含めて検討しています

検討スケジュール

- アセス手続き等に向けて、半年から1年程度の期間をかけてさらなる検討の深度化
- 施設計画の検討と併せて、事業スケジュールの短縮化を検討
 - 令和5（2023）年度 再開発事業認可
 - 令和11（2029）年度～13（2031）年度 全体供用開始

※全体スケジュールについては1ページをご覧ください

駅まち空間の回遊性向上・機能連携イメージ



市の対応

区全体の活性化を促す「核」としての地域生活拠点の形成を図るため、次について検討するよう、準備組合に申し入れました。

1. 再開発事業の早期着手と、早期効果発現
2. 将来の魅力的なまちづくりの中核を担う場所とするための「駅・駅前広場・周辺市街地の一体的なまちづくり」の推進
3. これまでの市民意見も参考に、ハード・ソフト両面で将来にわたり安心・快適に利用できる取組の推進
4. 多世代の多様なライフスタイルに対応し、一日過ごせるような都市機能導入